

事故防止に向けた安全対策 【 相撲 】

1 競技特性

- (1) 実技指導書等を参考に、競技の特性や特徴を記載する
- (2) 競技特性に応じた事故の特徴を記載する
- (3) 過去の重大事故例等を記載する

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として【施設・設備・用具】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
・土俵のひび割れ、破損など	・足首の捻挫 ・足底部擦過傷 ・足下脱臼 ・傷口からの炎症	・土俵の土を常に平に敷いて表面をしっかりと 固める。 ・土俵の砂は細かく土俵内と土俵の外回りに 均等に散布し足の裏や倒れた場合の怪我等 に備える。 ・使用前後に状態確認し、適切な補修を行う
・建物の整備や点検不足による事故等	・頭部の打撲 ・腰部の打撲 ・膝、肘の打撲 ・背部の打撲 ・胸部の打撲	・むき出しの柱、鉄骨、壁の角等に防御マットを巻くなどをして防止する。 ・道場が狭い場合は危険地帯を選手に分かる ように場所を示す
・まわしの着用に関する怪我	・手指捻挫 ・手指脱臼 ・手指骨折 ・股下部擦過傷 ・局部の打撲	・相撲場の安全管理には、安全点検表を作成し、定期的な安全点検と活動前の安全点検を、顧問が行う。 ・まわしの特性として、裸体で競技する選手 の内蔵を保護する役割を果たしている。そのため、間違った締め方や、だらしない 締め方が怪我の原因になるので選手の体つきに合わせ固めに締める。 ・まわしの緩み防止のため、折り目や縦まわしに注意して締める。 ・局部を保護するために、まわしを締めると きには前袋の作成には注意する。

(2) 主として【活動内容】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
・対人技能における怪我 ・押し、突き、立ち会いにおける怪我	・顔の外傷 ・頭部外傷 ・内腔内部の外傷 ・手指骨折 ・手指脱臼 ・手指捻挫 ・脳震盪 ・首捻挫	・準備運動や補助運動の重要性について十分 に説明し理解を深めさせる ・各部の補助運動を行う。 ・対人的技能の稽古の強化を行う。 ・関節の怪我防止のため、テーピングや包帯 等で保護して怪我や怪我の再発防止に注意 させる。 ・立ち会いによって起こる、脳や首への怪我 防止のため、適切な助言をする。
・投げ技における怪我	・腰带打撲、捻挫 ・膝関節捻挫、打撲 ・肩の打撲、脱臼 ・足首の捻挫、骨折	・必要に応じては、稽古を一時中断して、個 別指導を行う。 ・準備運動や補助運動の重要性について十分 に説明し理解を深めさせる。 ・転倒法の稽古を行う ・各部の補助運動を行う。 ・投げられた時などは、相手のまわしを離し、危険な倒れ方を防ぐ。 ・激しい身体接觸に耐えることのできる体力トレーニングを行う。

・禁じ手による怪我	・各部位の外傷、打撲、脱臼、骨折	・禁止事項やマナーを普段から重視し禁じ手が出そうになつたらすぐに競技を止める。 ・「礼」を重んじ相手を尊重する指導をする。 ・ルールや約束を遵する指導をする。 ・必要に応じては、稽古を一時中断して、個別指導を行う。
-----------	------------------	--

(3) 主として【環境条件等】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
・高温多湿の環境下や長時間にわたる練習 ・災害時の対応	・熱中症 ・避難時の外傷等	・環境状況に応じた運動、休憩、水分補給等の計画を立てる ・冷房が使用可能な施設においては積極的に使用する ・効率的な換気を行う ・避難の必要が生じる場合を想定した避難場所、経路の確保及び指定 ・関係者及び保護者等との連絡方法について準備しておく。